

オプション検査のご案内（必ず 事前に予約 が必要です）

<画像検査など>

| 検査項目 | 内 容 | |
|------|----------------|---|
| 婦人科 | 子宮頸がん検診(内診含む) | 医師の内診と、子宮頸部の細胞を擦り取って調べます |
| | 婦人科内診(協会けんぽのみ) | 医師が触診で子宮や卵巣などの状態を調べます。他の子宮頸がん検査との併用が必要です |
| | 経膈超音波検査(新) | 医師が超音波で検査し、内診では見つけにくい子宮や卵巣の小病変や大きさもわかります *子宮頸がん検診を受けられる方のみ追加可能です(この検査単独では受けられません) |
| | マンモグラフィ(2方向) | 乳房を挟んで圧迫し、X線を当てて乳房に病変がないか調べます 特に石灰化病変の発見に有用です。高濃度乳腺では腫瘍の発見が困難です (妊娠中、授乳中、断乳後6カ月以内、豊胸手術後の方は検査はできません) |
| | 乳腺超音波 | 超音波により病変の有無を調べます。石灰化病変より腫瘍の発見に有用です (妊娠中、授乳中、断乳後6カ月以内の方は検査できません) |
| | 乳房視触診 | 視触診の単独は検診として認められていませんので、他の乳房検査との併用が必要です |
| | 婦人科セット | マンモグラフィ(2方向)と乳腺超音波検査に、子宮頸がん検診をプラスした検査です |
| 超音波 | 腹部超音波(主に上腹部) | 肝臓・胆道・膵臓・腎臓・脾臓・腹部大動脈の状態を調べます |
| | 頸動脈超音波 | 頸動脈の動脈硬化の状態を調べることで、全身の動脈の状態を推測できます |
| 眼 | 眼底写真 | 緑内障・黄斑変性などの網膜の病気や、高血圧・糖尿病による病変がないか調べます |
| | 眼圧測定 | 空気を眼球に吹き付けて、眼球内圧を調べます |
| 胃 | 胃内視鏡(経口、経鼻) | 鼻 または 口 から内視鏡を挿入し、食道・胃・十二指腸の状態を調べます |
| | 胃部X線 | バリウムにより、食道・胃の状態を調べます |
| CT | 胸部CT(低線量CT) | 小さな肺癌、心臓などの陰に隠れて発見しにくい肺癌、肺気腫の発見に有用です *重要な所見が疑われた際は、その確認と経過観察のため、通常線量のCT検査が必要となることをご承知おきください |
| | 腹部内臓脂肪CT | 臍部の高さでCTを撮り、内臓脂肪の量を調べます |
| | 腹部CT(上・下腹部) | 体脂肪の多い方でも超音波検査より内臓がよくわかるので、特に肥満の方にお勧めです |
| | 腹部CT・内臓脂肪CTセット | 腹部CTと、CTによる内臓脂肪量の測定をセットにした検査です |
| 骨 | 骨密度検査(DXA法) | X線(DXA法)で大腿骨の骨密度を調べます。特に閉経後の女性にお勧めです |
| 血管 | 動脈硬化(血圧脈波) | 四肢の血圧と脈波を計測し、動脈硬化の状態を調べます |
| 便 | 便潜血検査(2日法) | 大腸がんのスクリーニング検査です。1回でも陽性なら精密検査が必要です |
| 肺機能 | 肺機能検査 | 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の早期発見に有用です。特に喫煙者の方にお勧めします |
| 痰 | 喀痰検査(3日法) | 3日間の痰をとり、がん細胞の有無を調べます。特に喫煙者の方にお勧めします |

<血液検査>

| 検査項目 | 内 容 | |
|--------------|---------------------------------|---|
| 胃 | ピロリ菌検査(血中抗体価) | 血液でピロリ菌感染の有無を調べます。原則、一生に一度測定すればよい検査です ※対象外：過去にピロリ除菌をしている方 |
| | ペプシノーゲン | 胃がんが発生しやすい萎縮性胃炎の有無を調べます |
| ※1 腫瘍マーカー | CEA | 多くの癌(肺癌・大腸癌など)で上昇しますが、部位の特定は困難。喫煙でも上昇します |
| | CA19-9 | 膵臓がん・胆道がんの腫瘍マーカーです |
| | AFP | 肝臓がんの腫瘍マーカーです |
| | PSA(男性のみ) | 前立腺がんの腫瘍マーカーです |
| | CA125(女性のみ) | 卵巣がんの腫瘍マーカーです |
| | 腫瘍マーカー(男性4種) | CEA、CA19-9、AFP、PSAをセットにした検査です |
| 腫瘍マーカー(女性4種) | CEA、CA19-9、AFP、CA125をセットにした検査です | |
| ウィルス 肝炎 | HBs抗原 | B型肝炎ウイルスの感染の有無を調べます。陽性の場合、感染していると考えられます |
| | HCV抗体 | C型肝炎ウイルスの感染を調べます。陽性の場合、現在または過去の感染が考えられます |
| | 肝炎セット ※2 | HBs抗原とHCV抗体をセットにした検査です(推奨) |
| 感染症 | 梅毒検査 (RPRとTPHAのセット) | RPR(定性)とTPHA(定性)の検査をセットで行い、梅毒の感染の有無を調べます ※感染していると共に陽性になりますが、感染して3週間経たないと陽性になりません |
| | 風疹検査(HI法) | 風疹に対する免疫の有無を調べます。抗体価が低い方にはワクチン接種を推奨します |
| | 麻疹検査(NT法) | 麻疹に対する免疫の有無を調べます。抗体価が低い方にはワクチン接種を推奨します |
| リウマチ | リウマチ因子(RF) | 関節リウマチを診断する検査ですが、膠原病などでも上昇します |
| 血液型 | 血液型 | ABO式、Rh式の血液型を調べます |
| 甲状腺 | 甲状腺セット(TSHとFT4) | TSH(甲状腺刺激ホルモン)とFT-4(甲状腺ホルモン)をセットにし、甲状腺機能を調べます |

※1 CEAは長期の喫煙でも上昇しますので、3週間ほど禁煙してから検査しましょう。

※2 我が国の肝臓癌の65%は、B型とC型の肝炎ウイルスが原因といわれています。肝炎ウイルスに感染していても無症状のことが多く(キャリアといい、約350万人いると推計)、徐々に進行し慢性肝炎・肝硬変・肝臓癌に至ることもあります。ぜひ一生に一度は肝炎ウイルス検査を受けましょう。